

神奈川県における看護師養成機関教員の勤務実態調査

○三島 雅子¹⁾、島田 真由美²⁾、堀 良子³⁾、南雲マリ子⁴⁾、高橋 泉⁵⁾、神尾 千春⁶⁾

1)積善会看護専門学校、2)厚木看護専門学校、3)北里大学看護学部、4)高津看護専門学校、

5)湘南医療大学保健医療学部、6)横浜未来看護専門学校

Key word: 看護師養成機関教員、勤務態様、職務意識

I. はじめに

看護師養成機関の教員の勤務実態は、余裕がない中で業務に従事している現状にあることが報告されている。昨今では、看護師養成所指定規則の改正に伴う教育内容の変化や入学生の質の変化などにより、より教員の指導力を必要とする状況が話題にのぼることから、看護教員の勤務環境は一層厳しくなっていると予測される。しかしながら最近の看護教員の勤務実態に関する報告は殆どなく、今回、本連絡協議会 調査研究部会で調査を企画し実態を把握することとした。

II. 研究目的

看護師養成機関教員の勤務態様と業務および職務に対する意識の実態を明らかにし、質の高い看護教育の実現に向けた教員配置の適正化について考察するための基礎資料とする。

III. 研究方法

対象：県内の看護師養成機関教員（新任教員、中途採用教員を除く）（以下看護教員とする）全員とした。

調査期間：平成 10 月 1 日～10 月 21 日

調査方法：研究の説明文と共に自記式質問紙および調査票を配布し、回収は郵送とした。調査票は、平成 18 年に文部科学省が行った小・中・高校教員の勤務実態調査を基に看護教員向けに改訂したものをを用いた。

調査内容：自記式質問紙は、個人のプロフィールと仕事のやりがいや生活のゆとり、講義の準備時間、自己研鑽時間等に対する意識についてである。また調査票は、1 日の時間経過を追った業務記録について、調査期間中任意の 2 日間の記録である。

尚、調査は本連絡協議会倫理委員会の審査を経て実施した。

IV. 結果

1. 対象者の概要

調査紙の配布数は 383、回収数 109(回収率 28.5%)

であった。性別は女性が 94%を占め、平均年齢 50.0 歳（最大 69、最小 30）であった。また、教育経験は平均 11.8 年（最大 29.7、最小 1.4、SD7.8）で現職の在職期間の平均は 7.3 年であった。

2. 勤務態様

就業時間の平均は 11.6 時間（最大 17、最小 7、SD2.2）、その内、時間外業務は平均 3.1 時間、平均昼食休憩時間は 0.5 時間であった。業務時間帯の内訳は図 1 の通りで、朝 6:00 から深夜 0 時を超えて勤務している状況であった。

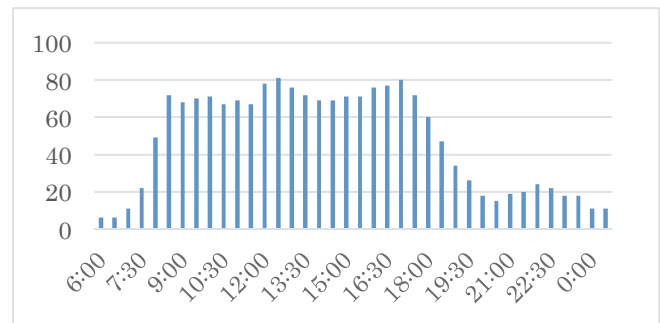


図 1 業務の時間帯

3. 職務に対する看護教員の意識

「仕事にやりがいがある」と感じる教員の割合は、15 年以上の教育経験者が最も多く（37.8%）、教育経験年数との間に有意差（ $P < 0.01$ 、Kruskal-Wallis の順位和検定）を認めた。教員の意識で割合が高いのは「仕事が多すぎる」95.9%、「講義準備時間が足りない」89.8%、「生活にゆとりがない」76.5%であった。

V. 考察とまとめ

看護教員は平均 3 時間を超える超過勤務を行い、早朝から深夜に及ぶ時間帯で勤務している極めて厳しい状況が明らかとなった。また、実習と講義が並行して進むことや学生指導に要する時間の多さ等から、講義の準備時間が足りない、生活にゆとりがない、仕事が多すぎるなどの実感をもつ教員の割合が非常に高く、労働環境の改善が早急に求められると考えられた。